

~~~~ 港散策 ~~~~

川崎港 — 神奈川県 —

川崎港は、明治末期から埋め立てが始まり、1926 年に開港。以来、京浜工業地帯の主要産業である鉄鋼、石油精製、石油化学、電気機器、金属、食品などの日本有数の産業を背域産業に持つ工業港として発展してきました。

一方で、東京湾岸道路で京浜両港と直結されている利便性から、東扇島地区には国内有数の冷凍・冷蔵倉庫群が立地しているほか、こうした保管・流通機能施設の充実を踏まえ、隣接したコンテナ埠頭を今後どのように活性化し、利用促進していくかが同港にとっての最重要課題のひとつとなっています。

港一帯は 2017 年に、みなとオアシスの登録をし、川崎マリエンを代表施設にみなとオアシス川崎として川崎港の観光及び地域振興のさらなる推進を図るため、交流機能や情報発信力を高め、川崎港の振興と観光都市として魅力あるまちづくりを 目指し、防災拠点としての役割も果たすべく、基幹的広域防災拠点(東扇島東公園)が整備されました。

川崎区大島には、船員の宿泊施設である「川崎海員会館」があり、川崎区港町には昭和 3 年築の産業遺産「川崎河港水門」があり、東海道の宿場町として発展した川崎区大師町の川崎大師があります。

\*\*\*\*\* 川崎海員会館三浦館長に聞く \*\*\*\*\*

■歴史

川崎地区の港湾整備に伴い海員会館の建設運動が実を結び、神奈川県川崎市の協力により昭和 27 年 8 月開館しました。昭和 39 年、昭和 49 年の改築を経てほぼ現在のスタイルになりました。

■宿泊

門限は 23 時です。浴室の利用時間、消灯時間とも 23 時になります。

ただし、お仕事の都合などでどうしても 23 時を過ぎてしまうという方は、遠慮なくフロントスタッフにご相談下さい。門限以降も入室できるよう対応させていただきます。

当館は、長期滞在のお客様が多く、食事もあることから入浴、洗濯などの生活に必要な面でも充実しています。洗濯室には無料でご利用いただける洗濯機があり、乾燥機は有料ですが、物干し場は屋内と屋外にもあります。室内の設備は、液晶テレビ、冷蔵庫、エアコン、空気清浄器が常備されており、客室は和室 6 畳 28 室、和室 8 畳 7 室があります。駐車場は 18 台分ご用意しています。また平置きなのでマイクロバス、トラック、大型バスも対応させていただきます。

「海員だより」

\*\*\*\*\*

▲▽川崎大師▲▽

川崎は、お大師様(平間寺)建立のころより寺社町として栄え、江戸時代には東海道の宿場町となり、大いに発展しました。その歴史を紐解けば、今を去る 890 年前、崇徳天皇の御代、平間兼乗<sup>ひらまかみのもり</sup>という武士が、無実の罪により生国尾張を追われ、諸国を流浪したあげく、ようやくこの川崎の地に住みつき、漁獺をなりわいとして、貧しい暮らしを立てていました。ある夜、兼乗の夢まくらに立った高僧からお告げがありました。兼乗は海に出て、光り輝いている場所に網を投じると一鉢の木像が引き揚げられました。それは、大師の尊いお像でした。兼乗は随喜してこのお像を浄め、ささやかな草庵をむすんで、朝夕香花を捧げ、供養を怠りませんでした。

その頃、高野山の尊賢上人が諸国遊化の途上たまたま兼乗のもとに立ち寄られ、尊いお像と、これにまつわる霊験奇瑞に感泣し、兼乗と力をあわせ、ここに、1128 年、一寺を建立しました。そして、兼乗の姓・平間をもって平間寺、御本尊を厄除弘法大師と称し奉りましたと伝えられています。